

10月9日 報恩講のご案内 10月10日 報恩講のご案内

報恩講は、私達の浄土真宗をお開きになった、親鸞聖人のご命日(旧暦11月28日)を縁とした、浄土真宗最大の行事で、二日間行われます。前夜の法要は、お通夜にあたるもので、「速夜(たいや)法要」と言います。法要後、軽食をご用意しています。



「日中(にっちゅう)法要」は、いつもと違い、華やかな飾りつけの本堂で行われます。読経、法話の法要後、おとき(精進料理)を召し上がって頂きます。お酒の用意もありますので、飲まれる方は、お車はご遠慮ください。



報恩講は、法徳寺門信徒皆様によるものですので、一戸3000円を全門信徒の皆様より出して頂く事になっております。ご協力の程、宜しく申し上げます。当日、やむを得ず欠席される方は、郵送にてお願い出来ればと思います。報恩講には、多額の経費が掛かりますので、ほかに、ご懇志を上納頂けたら幸いです。

七五三

お寺で、お子様の七五三のお祝いをしましょう。いつも見守って下さる阿弥陀様へ、先立っていかれた方々へ、お子様の成長をご報告する行事です。お寺までお申し込み下さい。



ニコニコ法話会

時間 午後1時半~3時

- 10月 2日(金) 念仏奉仕・ニコニコ法話会 (報恩講準備の為、清掃奉仕等)
 - 11月 2日(月) ニコニコ法話会
 - 12月 2日(水) ニコニコ法話会
- 伊勢原別院 立德寺 法話会ご案内(午後3時~)
- 伊勢原市桜台3-16-9 TEL 0463-91-2471
- 9月13日(日)・10月11日(日)・11月8日(日)

お彼岸法要

9月23日(水)
秋分の日



- ① 10:00~10:30
- ② 12:00~12:30

(各回、30分前より受付開始)

過去帳・位牌
読み上げ用紙
お念珠
お経の本(お持ちの方)

お彼岸期間 9月20日~26日

尚、ご自宅へのお参りご希望の方は、お早めにお申し込み下さい。

法徳寺 046(228)3962

法徳寺だより

第93号 発行
浄土真宗本願寺派
法徳寺
厚木市岡田5-4-12
TEL 046-228-3962
FAX 046-229-6962
住職 伊東英俊
法話 伊東英幸
編集 伊東祐子

築地本願寺団体参拝



日時 11月12日(木) 朝7時30分 法徳寺出発(時間厳守)
(朝は、駅には行きません。帰りは本厚木駅に寄ります。)

費用 6500円(当日ご持参ください。)

当日の予定・みどころ
築地本願寺にて報恩講参加。おとき(昼食)
築地場外市場にてお買い物
千鳥ヶ淵戦没者墓苑にお参り。



桜で有名な千鳥ヶ淵にあります。遺族に引き渡すことの出来ない無名戦没者の遺骨が納めてあります。

靖国神社にお参り
幕末から、太平洋戦争に至る戦没者246万余名の方々をお祀りしてあります。"遊就館"では、沢山の遺品、資料が展示されていますが、特に目を引くのは、弾痕生々しい戦車、大砲、「零戦」や「彗星」といった航空機。映画「戦場に架ける橋」~クワイ川~で有名なタイ~ビルマ間の鉄道で使うために国鉄から徴収され、戦後返還された蒸気機関車(SL)C56の圧倒的な重量感が、心を打ちます。

いろいろなお考えをお持ちでございましょう。
我々、浄土真宗の見解も車中でお話いたします。

注意点 お寺までは、車で来て頂いて構いませんが、バスにアルコールの準備があります。飲まれる方は、ご遠慮下さい。

お申し込みは法徳寺まで!
TEL 046-228-3962

55名の定員になり次第、締め切らせて頂きます!
毎年、ご好評頂いております。お申し込みは、お早めに!

お釈迦様は、人生は、苦の連続だと説いてい
ます。その苦しみからどうした救われるのか、
逃げてダメです。物事を正しく見て、正しく
考え、正しく行い、正しく心を定めれば、苦し
みは、自ずと消滅すると説かれました。

これが、仏教の根本原理です。
私はこの言葉より、二つのことを学びました。
一つは、「苦しみを、人のせいにしてはいけな
い」。あいつが悪い、こいつが悪い、先祖が悪
い、方角が悪い、日が悪いなど、それではいけ
ません。もう一つは、「苦しみを避けようとし
てはいけない」ということです。不幸も災難も
起こらない人生などありません。それを、避
けようとするとうなるかといえますと、祈り
が生まれず。神仏に祈る気持ちはわかりませ
ん、もし、思い通りにならない場合、どうな
るでしょうか？祈りが足りない、信心が足らな
い、お布施が足りない、悪循環です。

約十五年前、私は、京都で約三ヶ月、住職過
程という研修で学ばせて頂きました。その研修
に、ブラジルのお寺からいらしていた女性僧侶
がいました。ブラジルのお寺は、日本以上に、
とても、信者の方が熱心で、多忙な住職を助け
るため、浄土真宗の教えを学びに来られていま
した。彼女の日課は、毎朝、お寺の阿彌陀様の
周りのお掃除から始まるそうです。その際、阿
彌陀様にいつもお話をするそうです。「阿彌陀
様、おはようございます、私は、今日も元気で
す、阿彌陀様、今日も一日宜しく願います」。
私は、そのような熱心な彼女の話を、いつも、
楽しみにしておりました。ある時、次のような
法話をしてくれた時がありました。

お寺という字は、十一寸と書きます。なぜ、
十一寸なのか？私たちの、ものさしは、本来十
寸しかありません、しかし、仏さまの教えを聞
かせていただくことにより十一寸の、ものさし

を持つことが出来るのです。一寸は、たったの
約三センチです。しかし、「一寸先は、闇」と
いいます通り、私たちの人生は、いつ何度、何
が起こっても不思議ではないのです。

例えば「死」です。私たちの、ものさしから
言えば、死は、不幸なことです。でも、仏様の、
ものさしでは、「死」は、不幸なことではなく、
自然なことです。

皆さん、なぜ僧侶は、法事や葬儀で、色のつ
いた派手な衣を着るのかご存知でしょうか？
沢山お布施をもらうからでしょうか？(笑)
それは、おめでたいことだからです。苦し
み多き娑婆世界を離れて、苦しみのない安
らかな、浄土へ生まれたのです。それが、
仏様のものさしです。もちろん、大切な方
を失い、おめでたいなんて言ったら、怒ら
れます。しかし、そういう視点を持つこと
が大切なのです。私たちのものさしを越え
た十一寸のものさしでなければ、救われな
いのです。

そういうえば、葬儀に、赤飯を炊く地域が
あると聞いたことがあります、これも、仏
さまに成られたというお祝いの意味がある
と思います。

これが、先ほどのお釈迦様のお示し下さつ
た「正しい見方」なのです。それは、難し
いことではありません、視点を変えてみましょ
う！と仏教では教えておられます。仏教は、
苦しみを不幸とは考えておりません。

仏教の正しい見方では、世の中、何が、幸福
で不幸なのか、分からない、それは、自分の心
が決めているだけのことですと教えて下さいま
す。いい日、悪い日などありません、いい日
になるか悪い日になるかは、自分の行い次第で
分かります。大切な方を亡くされ、学ぶことも

多いと思います。人生、長いのが幸せなのか、
短いのは、不幸なのか、長い短いでは計れませ
ん。

浄土真宗は、私の願い(欲望)を仏さまに叶
えてもらう宗教ではありません。逆に、仏さま
の願いを聞かせて頂く宗教です。仏の願いは、
「南無阿彌陀仏」を称え、頂いた命を大事にし
生きてくださいというものです。

法話 十一寸のものさし

私たちは、南無阿彌陀仏と称えておりますが、
これは、阿彌陀様が、言葉の仏さまとなつて、
私の口に現われて下さっているのです。阿彌陀
様は、南無阿彌陀仏という呼び声となり、常に、
「おまえをどんなことがあっても、浄土へ救う」
というものです。

阿彌陀様は、私がお願ひしたわけでもないの
に、阿彌陀様の方から先に「どうか、浄土へ生
まれと信じてほしい、私に任せてほしい」と
願われております。なぜなら、私には、浄土へ
生まれたいという気持ちは起こらないからです。

私は、浄土がどんなに素晴らしい世界であると
聞かされても、たとえ、苦しみ多き、娑婆の世
界であつても、いつまでも、生きていたいし、
愛する人と離れたくないのです。しかし、その
願いは、空しく、誰も、願いどおりに人生はい
きません。しかし、どんなことがあつても浄土
へ救うという言葉は、安心させていただけると
言えます。私は、浄土真宗の教えは、生きる力と
安らぎを与えるものだと思います。寺院も病院
も、同じ「院」がきます。

これは、生きていく者が救わ
れる場という意味です。いつ
か、お浄土で、亡き方と再会
をとげられた際に、よく「頑
張ったね」と褒めてもらえる
ように生きましよう。

(法徳寺副住職 伊東英幸)



法徳寺子ども夏休み



8月20日、
今年は南足柄の夕日の滝キャンプ場
へ行きました。川で水遊びをし、お寺
ではお参りの作法を学び、ゲームをして
遊びました。夕飯は手作りカレーをお腹
いっぱい食べて、花火をしました。
夏の楽しい一日となりました。

